

平成29年度府中市障害者等地域自立支援協議会  
相談支援部会中間報告

## 1 部会員氏名

	氏名	所属
1	鈴木 卓郎(部会長)	地域生活支援センタープラザ
2	原 郷史(副部会長)	地域生活支援センターふらっと
3	犬飼 知子	NPO 法人発達カウンセリングポップシップ
4	平良 圭嗣	有限会社やすらぎ やすらぎ
5	椋島 剛之	障害者当事者
6	河井 文	府中市肢体不自由児者父母の会
7	栗山 恵久子	府中市手をつなぐ親の会
8	野村 忠良	府中市精神障害者を守る家族会
9	古寺 久仁子	東京都立多摩療育園

## 2 部会の経過報告

第1回部会：平成29年6月13日(火)10:00～11:30

出席：部会員7名、事務局1名

今期の相談支援部会の活動について検討した。まず、今年度1年間かけて現状府中市にある相談支援の活動状況を把握することにした。方法としては、部会にオブザーバーとして各相談支援機関を招き、ヒアリングを行うことにした。また、次回第2回の部会では、前半に第5期府中市自立支援協議会の答申書で示した相談支援部会としての提言に対して、府中市障害者福祉課から答申を受けての対応について説明してもらうことにした。後半は、市内地域生活支援センター4か所の事業内容や現状について説明してもらう。

第2回部会：平成29年7月20日(木)10:00～12:00

出席：部会員6名、事務局1名、オブザーバー3名

前半は、府中市障害者福祉課長補佐より、第5期府中市自立支援協議会答申書を受けての府中市としての現時点での対応を説明してもらった。質の高い相談支援体制の確保のために、指定特定相談支援事業所に対して府中市独自の運営補助をつけることは、同事業が給付費で賄うことを前提にしているため、現時点では難しいとのこと。人材育成・研修については、府中市特定相談支援事業所連絡会を活用していきたいとの意向であった。また、障害福祉サービスから介護保険への移行にあたって、現場でも様々な困難が指摘されているが、府中市としては個別の状況を確認したうえで判断を行っているとのことであった。

後半は、地域生活支援センターみ～なの中川氏、地域生活支援センターあけぼのの高橋氏をオブザーバーに招き、府中市内の委託相談支援事業所(地域生活支援センター)の現状についてヒアリングを行った。この日は、プラザを含めた3ヶ所の支援センターの現状が説明された。ふらっとは

次回第3回にヒアリングを実施することになった。ヒアリングの内容をふまえて作成された市内4ヶ所の地域生活支援センターの事業実施状況は別表を参照。

第3回部会：平成29年8月8日（火）10：00～11：40

出席：部会員6名、事務局1名、オブザーバー2名

この日は、地域生活支援センターふらっとのヒアリングと、府中市社会福祉協議会まちづくり推進係の吉井氏・井口氏をオブザーバーにむかえて、地域福祉コーディネーターの活動等について話をうかがった。

地域福祉コーディネーターの活動は、障害福祉の分野に限られたものではなく、より幅広い「地域福祉」という観点から取り組みを行っている。既存の制度では解決の難しい分野の相談を受け、コーディネーターは現在11名配置されている。地域の困りごとは、障害、保健、高齢、児童、子育てといった縦割りだけでは解決できないことが多く、個別の相談事例を通じてより横断的な連携を築くことと、地域住民から直接相談を受けられる身近な相談窓口を開設することなどを積極的に行っている。場合によっては、アウトリーチによる訪問相談を行うこともある。現在、武蔵台文化センターと押立文化センターで定期的開催されている「困りごと相談会」には、4支援センターも専門相談の回に協力している。

### 3 今後の部会の議論の方向性

ヒアリングの後、今後の相談支援部会の議論の方向性を確認した。今期の自立支援協議会に答申する内容として、府中市における必要な相談支援体制の「図」を作るとしたら、それは障害福祉分野だけのものではなく、より広く「まちづくり」をイメージした包括的なものを作る必要がある。そこには、障害者福祉課と4支援センターだけではなく、地域福祉コーディネーターや高齢の地域包括支援センター、子ども家庭支援センターたちや教育センターの相談部門などが含まれ、幅広い窓口の相談から障害福祉分野の相談ニーズをキャッチすることが求められる。

そのことをふまえて、まず次回第4回の部会では地域包括支援センターの方をオブザーバーとして招くことになった。

< 次回の相談支援部会の予定 >

平成29年9月21日（木）第4回：市内の地域包括支援センターへのヒアリング

以上